

令和6年度 市民の声一覧(下半期公表)

受付月	分類	件名	市民の声	回答(対応)内容	回付先
10月	地域コミュニティ・市民参加	衆院選の選挙区案内間違いについて	ニュースで報道がありましたが、衆院選で選挙区を案内し間違えて1票が無効になることについての意見です。 高知県は以前より1票の格差が大きいとされており、今回の事例で1票が無効になるというのはとても大きな問題だと思います。無効にするしか方法はないのですか？今回政治改革の局面の大事な選挙なので1票でも無くなるのは惜しいと思うのですが。 選挙管理委員会や投票所の運営者はダブルチェックをしていないのでしょうか？このような問題が起きてはいくら「選挙に行きましょう」と呼びかけても運営に対して不信感が残ると思います。	「市民の声」にお寄せいただきました、衆議院議員総選挙における選挙区案内誤りに対するご意見にお答えいたします。 本市の期日前投票所では、本市の高知1区と高知2区のどちらの有権者でも投票ができることとなっています。 そのため、案内間違いや投函間違いのないように、受付時に複数の職員が確認を行い、さらに、1区と2区の色違いの識別札をお渡しして投票が終わるまで携行していただくなど、複数の従事者がチェックを行うようにしておりますが、今回はそのチェックが不十分であったことにより、案内間違いが発生した可能性が高いものと考えております。 案内間違いであった場合、小選挙区の投票につきましては、無効投票となる可能性も高く、貴重な1票を投じられた選挙人の方には申し訳なく、お詫び申し上げるところです。 なお、比例代表及び最高裁判所裁判官国民審査については、基本的に無効投票とはならないものと考えております。 今後におきましては、このような案内間違いのないように、確実な事務と確認を徹底させてまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いします。	選挙管理委員会事務局
11月	地域コミュニティ・市民参加	女性に対するマイクロアグレッションについて ※マイクロアグレッション 相手を傷つける意図はないものの、無意識の偏見や先入観が言葉や態度に現れ、相手を不快にさせたり、傷つけてしまう言動のこと	先日、保健所生活食品課の営業許可証交付講習会を受講しました。 その際のテキストにおいて、「営業者の姓が変更になった時」の例が「土佐花子→高知花子」と示されていました。 現在は結婚に際して、圧倒的多数の女性が姓を変更していますが、それによってアイデンティティの喪失、キャリアの断絶、様々な手続き上の負担が多くの方に押し付けられています。 しかし、現行法において男女どちらが改姓しても問題はありません。女性が姓を変えることを「当たり前」と想起させることがないよう、男性名あるいは男女どちらも通用する名前(あきら、りょう、ひなた等々)を例示するよう改善を希望します。 当該講習のテキストに限らず、高知市が関係する各種の改姓に絡む例示を上記の趣旨で改善していただきたいと思っています。	現在の民法では、結婚に際して、男性又は女性のいずれか一方が必ず姓を変えなければならず、結婚して姓を変える人は、女性が圧倒的に多いのが現状です。 本市が定める「男女がともに輝く高知市男女共同参画条例」では、その基本理念として、男女の個人としての尊厳が重んじられること、男女が性別による差別的な扱いを受けないこと、また、社会における制度等が男女の社会における活動の選択に対して及ぼす影響をできる限り中立なものとするよう配慮されることを掲げています。 社会においても、多様性の尊重や女性活躍推進に向けた取組の重要性が議論される中で、多くの女性が婚姻に際し直面する改姓は、アイデンティティの喪失や、キャリアにおける大きな弊害となること等が指摘されています。 ご意見のとおり、改姓に関する例示が、無意識のうちに女性が姓を変えることを想起させるマイクロアグレッションとなり得ることを認識し、このことについて性別に関わらず誰もが社会の対等な一員として互いに尊重し合いながら、その生き方を選択できるジェンダー平等社会の実現に向けた取組となるよう庁内に周知を図ってまいりたいと考えております。 なお、生活食品課では、今回ご意見をいただきました食品営業許可証交付講習会におけるテキストの例示を含め、他の業務に係る記載についても確認し、見直しを行うこといたしましたので申し添えます。 今後とも本市の男女共同参画や人権尊重の取組にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。	人権同和・男女共同参画課 生活食品課
3月	地域コミュニティ・市民参加	高知市の地域づくりについて	私は高知市在住の高校2年生です。 私の高知市への要望は、「高校生がリーダーとなって活動できるボランティアグループを作っていただきたい」ということです。その理由は、以下の2点にあります。 まず第一に、高知市は少子化が進み、特に高齢者の割合が増加している地域です。将来的には、現在以上に少子高齢化が進む可能性が高いと考えております。これから成長する私たちにとって重要なのは、大人になった時に社会に通用する力を身につけ、少人数でも高知市を支える力を養うことだと考えております。 第二に、他県に比べて高校生が参加できる無料のボランティア活動が少ないことが挙げられます。調べたところ、私たち高校生が参加できるボランティア活動は、費用がかかる場合が多かったり、平日の学校時間帯に開催されていたりするため、参加が難しい状況であることがわかりました。したがって、将来の高知市を支えていくために、ボランティア活動を通じてコミュニケーション力や社会経験を積むことが非常に大切だと考え、「高校生がリーダーとなって活動できるボランティアグループ」の設立が必要だと感じております。 もし「高校生がリーダーとなって活動できるボランティアグループ」を設立していただけるのであれば、活動内容としては、まず自分たちでボランティアやイベントを企画し、開催していくことを考えております。イベントやボランティア活動を実施するにあたって必要となる費用については、改めてご相談させていただければと思います。 また、帯屋町や地域の個人店舗の方々、小学生から大学生、社会人の皆様にもアンケートを実施し、現在の高知市に必要なものについて意見をいただき、それらを地域づくりに活かしていきたいと考えております。長文となり、失礼いたしました。何卒、よろしくご検討のほどお願い申し上げます。	地域づくりに係るご意見をいただきありがとうございます。 「高校生がリーダーとなって活動できるボランティアグループを作っていただきたい。」というご意見につきましては、地域コミュニティ推進課で取り組んでいる「子供たちによるまちづくり」に合致するものであり、「こうちこどもファンド」を活用して、実現が可能ではないかと考えております。 「こうちこどもファンド」は子供たちが自ら考え、仲間と力を合わせて行うまちづくり活動に対して助成を行っており、要件としては、小学校から高校生までのメンバーが3人以上いること、大人のサポーターが2人以上いること、2世帯以上で構成されていることなどで、助成上限金額は20万円となっています。 要望者様の想いが具体化できるよう支援してまいりたいと考えておりますので、是非、一度、地域コミュニティ推進課まで連絡をお願いいたします。 「こうちこどもファンド」の詳細については、以下のホームページから確認をお願いします。 https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/21/kochikodomofund-6jyosei-bosyuu.html	地域コミュニティ推進課